

テキストの変容する過程に関する一試論

— 『洪範五行伝』を題材に論ず—

平 澤 歩

(日本、東京大学大学院人文社会系研究科助教)

本報告では、『洪範五行伝』の用いられ方の変化と、そのテキストの変容について検討する。

『洪範五行伝』は、尚書洪範の学として生み出され、当初は専ら尚書学の中で用いられていた。その後、『春秋』や『易』と組み合わせて用いられたり、月令との理論的な整合を求められたりするようになった。

やがて、月令と複合した新たな文献を生み出し、そこから更には、『洪範五行伝』のテキスト自体に大きな変化が生じた。その結果、隋唐期の文献に引かれた『洪範五行伝』には、当初の性格と大きく異なるものまでもが含まれている。

今回、歴代の文献に収められた引文を照合してこのことを確認し、これらの変化を生んだ原因について考察する。